編集後記

夢と期待をもって迎えた21世紀初頭の2001年に米国同時多発テロ事件(9月11日)が発生し、また、日本では狂牛病の発生など、20世紀におけるさまざまな「負の遺産」が顕在化し、危機管理、安全が21世紀のキーワードの1つといわれています。

現在、私たちは先端科学技術、あるいは、巨大科学技術の便益を享受しており、これからの日本の立国は、科学技術の発展を抜きにしては考えられません。しかし、遺伝子操作技術の利用や原子力技術利用に端的に見られるように、先端科学技術・巨大科学技術の利用に伴う危険、特に、環境や健康への危険が無視できないため、必ずしもその利用に社会的合意が得られているわけではありません。これからは、先端科学技術・巨大科学技術の利用についての最終的な意思決定は、非専門家である一般市民によってなされることになると考えられます。そこで、第1回北陸地域アイソトープ研究フォーラム(金沢大学主催、北陸地域の放射線施設を有する大学、石川県及び北陸地域アイソトープ研究会との共催、富山県、福井県の後援)で「科学技術の進歩と社会的合意」と題して甲子園大学学長の本下富雄先生に特別講演を行っていただきました。その講演録を会誌に掲載しておりますので是非読んでいただきたいと思えます。

第2回北陸地域アイソトープ研究会は平成13年1月13日(土)に開催されましたが、研究会の途中から雪が降り出し、15年ぶりの大雪となりました。市内の交通が大渋滞するだけでなく電車や飛行機が何日にもわたって運休し、北陸は雪国であることを再認識させられました。北陸では1月から3月中旬までの期間は研究会を行わない方がよいと思われ、第3回研究会(パネルディスカッション「空間線量測定マニュアルへの対応」)は平成14年3月下旬に開催する予定です。

(H・M)

北陸地域アイソトープ研究会誌

The Hokuriku Journal of Radioisotope Research

第3号 2001年12月1日発行

※ 北陸地域アイソトープ研究会誌は、全編集ページを Apple Macintosh と各種 DTP ソフトを使用して作成し、イメージセッターで出力して刊行しています。

編集・発行 北陸地域アイソトープ研究会

〒920-8640 金沢市宝町13番1号

金沢大学アイソトープ総合センター内

電話 076(265)2471

FAX 076(234)4245

印刷 田中昭文堂印刷株式会社

〒920-0377 金沢市打木町東1448番地